



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

2月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤 尚子

やってみたい・やってみよう

副園長 本橋 房子

さくらだこども園では、年長児が冬休み前から投げゴマに挑戦しています。投げゴマは、ひもを巻くことや投げ方にコツがあり、コマを回せるようになるには、それを自分の体で覚えるまで何度も繰り返し取り組む根気強さが必要で、簡単には回せません。それでも1月末になるとコマを回せる子が増えてきました。投げゴマを通して、すぐにはできないことも、繰り返し取り組むことでできるようになるうれしさを経験してほしい、それが自信となって様々なことに挑戦してほしいと願っているので、この姿に成長を感じています。けれども、中には、コマ回しを楽しんでいる友達の側で、手にコマを持ったまま様子を見ていたり、少しやっってはすぐにコマを片付けてしまったりしている子もいます。興味はあるものの「やってみよう！」という思いより「難しそうだからきつと無理」「できないのを見られたくないな」「何度もひもを巻くのは面倒」というような思いが強いのかもかもしれません。初めからやらなければ、失敗することもないし、できないことに向き合うことありません。でも、やってみよう・やってみたの先にある、自分でできるようになっていくうれしさや達成感、友達と一緒に回す楽しさや勝ったり負けたりと競い合うおもしろさにも出会うことができます。

ある日、まだ回せないと言う子と一緒にやってみようと誘ってみました。ひもは巻けるようになっていたので、「ひもを上手に巻けているからきつと回るよ」と、手を添えて一緒に何度か投げってみました。「タイヤ回し（横向きに回る）で回ってる！回るようになってきたね」と言うと、自分は回せるかもしれないと思えたようで、一人で何度も挑戦していました。2日後、その子が「先生、今日回ったよ！」と言いに来ました。私は「すごい！よく頑張ったね」と一緒に喜ぶと、笑顔を見せ、「コマやってくる」と言って保育室に戻って行きました。回せたことが自信となり、また回したいと自分から取り組む姿を見て、とてもうれしくなりました。

私たち保育者は、やってみようと子どもの心が動くような働き掛けを日々意識しています。子どもはできそうと思えるとやってみようと動き出します。遊びや活動の中で、子どもたちがやってみたくなるように環境や教材を工夫し、自分にもできそうと思えるように保育者が励ましたり、具体的に教えたりして援助しながら、やってみようの気持ちを支えていきたいと思います。そして、やってみなければ分からない様々な思いや考えに出合いながらそれぞれの世界を広げていってほしいと願います。

— 今月の指導のめあて —

- < 3歳児 >
 - ・生活や遊びの中で、自分の気持ちを動きや言葉で表して、相手に伝わったときの心地よさを感じたり、やり取りを楽しんだりする。
 - ・お話に出てくる動物になって動いたり、楽器を鳴らしたりしながら、学級の間みんなの中で自分なりに表現することを楽しむ。
- < 4歳児 >
 - ・気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉にしたり、相手の思いを聞いたりする。
 - ・年長児との関わりを通して親しみを感じ、あこがれや感謝の気持ちをもつ。
 - ・学級全体でする活動を楽しむ中で、友達とのつながりを感じる。
- < 5歳児 >
 - ・自分のめあてをもってあきらめずに挑戦したり、繰り返し取り組んだりする楽しさを味わう。
 - ・友達と一緒に生活や遊びを進める中で、自分の思いだけでなく、相手のことも考えながら行動しようとする。
 - ・園生活を振り返り、自分の成長を感じる。